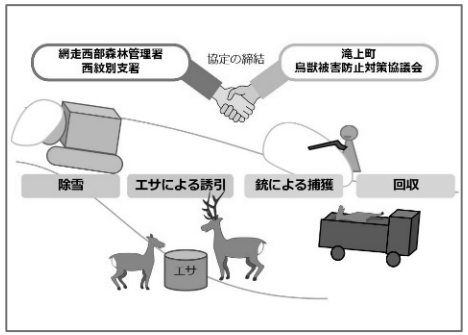
エゾシカ捕獲の効率化を目指した取組
～自動撮影カメラによる動向調査結果の活用～

北海道森林管理局　網走西部森林管理署西紋別支署　北雄森林事務所　〇寺田　崇晃
森林技術指導官　　阿部　義則

１　課題を取り上げた背景

北海道紋別郡滝上町では、春先のエゾシカによる農林業被害を防ぐため２月から３月にかけて滝上町鳥獣被害防止対策協議会によるエゾシカの一斉捕獲活動を実施しています。

当支署では協議会と連携し、平成２９年度から林道の除雪及び餌による誘引を行うエゾシカ捕獲連携事業を実施しています（図１）。また、これと並行し捕獲により変化すると思われるエゾシカの動向を調査するため自動撮影カメラを設置し画像データの収集を行っています。



（図１：エゾシカ捕獲連携事業概要）

一斉捕獲活動による捕獲実績は平成２９年度１０頭、平成３０年度１１頭となっています。捕獲頭数が少なく感じたため捕獲時の状況について聞き取りを行ったところ「捕獲に行っても餌にシカが集まっていなかった。」という話がされ、餌を置いてから誘引効果が最大になっている時点に捕獲を実施することができれば捕獲効率が上がるのではないかと考えました。

２　取組の経過

誘引効果が最大になっている時点の推定に使用するデータは平成２９年７月からエゾシカの動向を調査するために設置している自動撮影カメラのデータを活用することとしました。

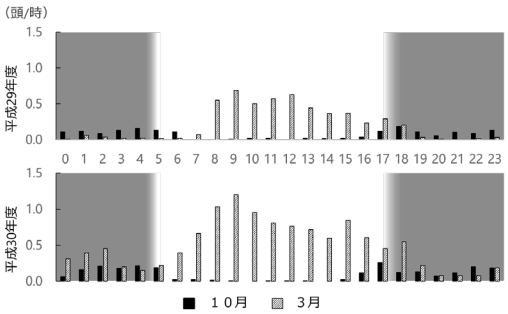
自動撮影カメラは林道脇に６台を設置し、センサーによる撮影間隔が５分以上となるように設定しています。平成２９年８月から令和元年８月までの２年間で９，７６０枚のエゾシカを撮影したデータを得ることができました（写真１）。

この画像データを基に月別、時間帯別、雌雄別に撮影された頭数を集計し分析を行いました。

（写真１：撮影されたエゾシカ）

３　実行結果と考察

得られたデータから、撮影を行った箇所では①年間を通してエゾシカが生息していること。②狩猟期の初期と終期でエゾシカが撮影される時間帯に偏りがあること（グラフ１）。③餌の設置後、エゾシカが誘引されるまで期間を要すること。の３点について考察し、報告会において分析したデータを軸に意見交換を行いました。



（グラフ１：餌場以外の箇所の１０月と３月の時刻別平均撮影頻度の比較）

報告会での意見を基に一斉捕獲活動の実施時期・給餌のタイミングについて調整を行い、エゾシカ捕獲連携事業を実施しました。

令和元年度の捕獲実績は３０頭と前年度に比べ大きく伸びましたが、給餌と捕獲のタイミングの調整及びエゾシカが多く撮影される時間帯の情報を有効活用できたことが一因になったのではないかと考えます。

今後もデータの収集を継続し情報の精度を高くすることにより、より効率的に捕獲を行えるよう協議会と協力しエゾシカ捕獲連携事業を進めていきたいと考えています。